

額田小野崎昭通への伊達政宗の密書

那珂市歴史民俗資料館



額田小野崎昭通宛て伊達政宗書状（菊池恒雄家所蔵）

群雄割拠の戦国時代、各々が天下人となろうと京都を目指して鎬^{しのぎ}を削っていました。戦国7大名の織田氏、豊臣氏、徳川氏、後北条氏、佐竹氏、上杉氏、伊達氏たちです。常陸の太田城を拠点としていた関東の雄佐竹義宣も南下策を推進して、小田原城を拠点とする北条氏康と対立していました。

しかし北方への警戒も重要でした。同じく南下策をとる米沢岩出山城の伊達政宗の圧迫は避けられず、しばしば抗争が続きました。

加えて佐竹義宣の懸念は、太田の南に存する額田の小野崎昭通の存在です。

佐竹氏の出城的存在であった額田城は、はじめ佐竹氏の一族が配されていましたが、本家が上杉氏から養子を迎えたことを非難したことから本家と対立（のちに山入の乱として発展）し破れ、滅亡しました。

その後には、佐竹氏の家臣藤原系小野崎氏が配されました。小野崎氏の2代目は水戸城を拠点とする藤原系江戸氏から養子を迎えます。大勢力ではあった佐竹氏は、額田城、江戸城とは親疎の関係を繰り返しながらも支配下に納めていました。

そのような中、政宗は太田城を攻めるべく、小野崎昭通に目を付けて挟撃策を考えました。政宗と昭通の出会いは、政宗が佐竹義宣・芦名氏と抗争し破った「摺上原の戦」後の和睦の使者として昭通が派遣された時のことと思われ、その後政宗はしばしば昭通に書状を送っていたようです。

平成23年3月11日の東日本大震災の結果、ひたちなか市湊の菊池恒雄氏宅から発見された天正17年（1589）10月晦日付けの伊達政宗書状（起請文^{きしょうもん}＝約束違反は神仏の罰を受ける覚悟を示す）は代表的なもので、いわゆる密書とも呼ばれるようなものです。

内容は、

- ① 南郷へ出馬し着陣した際には何があろうとも連絡をする。
- ② 昭通が佐竹氏と手切れた後に身柄や所領を保証する必要があるれば相談に応じる。
- ③ 佐竹氏と江戸氏との合戦で勝利したならば、那珂川以北の所領を所有してよい。

というものです。

結果としてこの策は実現せず、政宗の南下もなく、額田城は佐竹義宣により落城しました。

しかし、脱出した昭通はやがて伊達政宗の庇護を受けることになります。戦国時代、ともすれば権謀術数が展開され、倫理観も無視されがちな中であって、約束を守った政宗の至誠に感嘆します。

その後昭通は、越後高田の松平忠輝に仕え、さらに水戸藩初代藩主徳川頼房に額田九兵衛照通として仕え、譜代の上級家臣として藩政を担いました。

馬術はもちろん絵画も得意とし、「鳴き鶉」や「鷹」の絵はよく知られています。